

# 進路指導室から 第386号

## はじめに

まだまだ暑い日が続きますが、夜、外を歩いていると、どこからともなく虫の音が聴こえてきます。今年の夏も少しずつ終わりに近づいています。季節の移り変わりを感じるとともに、少し寂しい気持ちになります。

## 「令和4年度全国学力・学習状況調査」について

文部科学省は、7月28日（木）に、4月19日（火）に実施した「令和4年度全国学力・学習状況調査」の結果を公表しました。以下は、中学校調査の結果です。

### ■ 調査結果概況

広島市は、国語、数学、理科とも「平均正答率」、「中央値」、「標準偏差」は全国（公立）とほぼ変わりません。ちなみに平均正答率が高かったのは、国語については秋田県の73点、数学については石川県の58点、理科については石川県の55点でした。

#### 〔調査結果概況〕

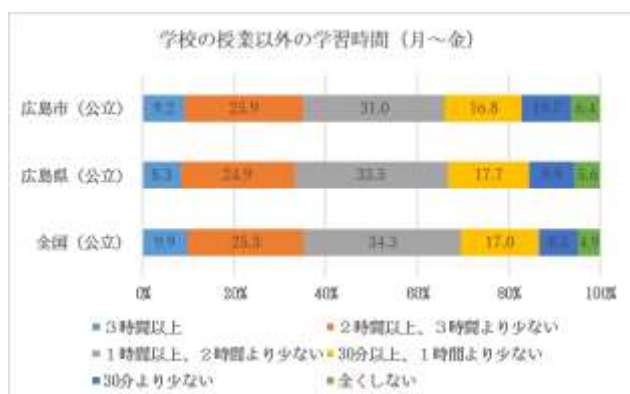
教科	校種	生徒数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
国語	全国（公立）	891,820	9.7/14	69.0	10.0	2.9
	国立	9,619	11.8/14	84.1	12.0	1.9
	私立	26,269	10.5/14	74.8	11.0	2.5
	広島市（公立）	8,783	9.6/14	69	10.0	2.9
	広島県（公立）	20,200	9.7/14	69	10.0	2.9
数学	全国（公立）	891,913	7.2/14	51.4	7.0	3.6
	国立	9,635	10.9/14	77.8	11.0	2.6
	私立	26,283	8.6/14	61.4	9.0	3.4
	広島市（公立）	8,787	7.1/14	51	7.0	3.6
	広島県（公立）	20,206	7.0/14	51	7.0	3.6
理科	全国（公立）	892,585	10.4/21	49.3	10.0	4.1
	国立	9,640	14.4/21	68.4	15.0	3.4
	私立	26,284	11.5/21	54.6	12.0	4.0
	広島市（公立）	8,794	10.3/21	49	10.0	4.1
	広島県（公立）	20,213	10.3/21	49	10.0	4.1

### ■ 学習状況調査結果（生徒質問紙）

また、生徒質問紙による学習状況調査（約70項目）が実施されました。

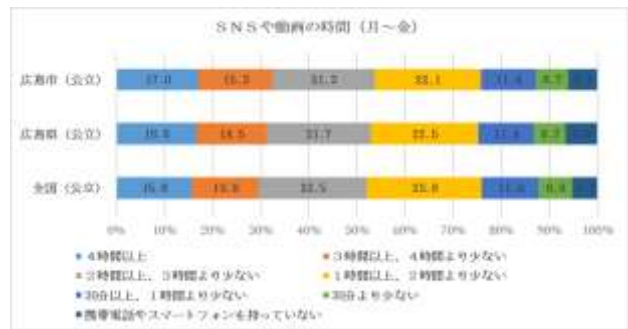
#### □ 学校以外の学習時間について

学校以外の学習時間については、「月～金」、「休日」のどちらも全国平均を下回っています。広島市は、「月～金」に2時間以上学習する生徒の割合は全国を上回っています。その一方で、「30分より少ない」「全くしない」の割合が大きくなっています。



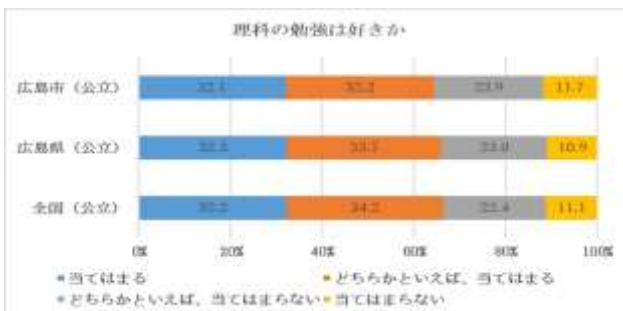
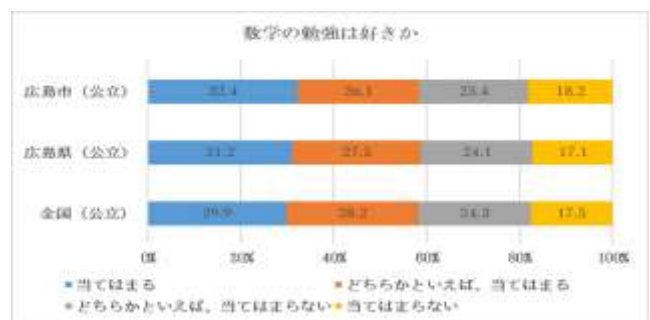
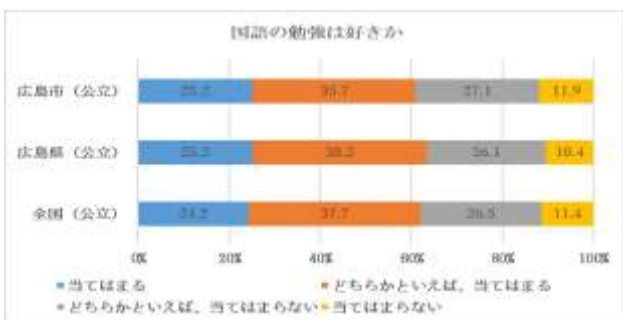
□ テレビゲーム・SNSや動画の時間について

テレビゲーム・SNSや動画の時間については、広島市は全国と比較して長い傾向があるようです。上記の学校以外の学習時間に影響している可能性があります。



□ 国語・数学・理科の好きについて

国語と数学については、「当てはまる」、「どちらかといえば、当てはまる」は全国とほぼ同じですが、理科については、やや少ないようです。



その他にも、「自分には、よいところがありますか」、「学校に行くのは楽しいと思いますか」、「新聞は読んでいますか」、「読書は好きですか」等の結果がまとめられています。現在の中学生の学校生活や家庭生活を知る手がかりになります。

詳細については、国立教育政策研究所のホームページでご確認ください。

「夏の大学フェア (駿台教育研究所)」について

駿台教育研究所は「夏の大学フェア (駿台教育研究所)」で、各大学のWEBオープンキャンパス等をサイトにまとめて紹介しています。各大学の情報が、わかりやすくまとめていますので、活用してください。

<https://sundai-kyouken.jp/fair/2022/summer/>

「第2回保護者対象進路指導研修会」について

以下にて、「第2回保護者対象進路指導研修会」を行います。

日 時	: 令和4年9月17日 (土) 14:00~15:30
場 所	: 本校視聴覚教室 (予定)
内 容	: 「難関大入試について」
講 師	: 駿台予備学校広島校から招聘 (予定)

9月7日 (水) から進路指導室前に申込用紙を用意しておきますので、必要事項をご記入の上、お子様を通じて進路指導室部にご提出ください。(申込手続きなしのご参加はご遠慮ください) 今回は、原則として、2・3年生の保護者を対象とします。なお、新型コロナウイルス感染症の感染状況によっては、中止にさせていただきます。

終わりに

今年も大雨による被害が各地で出ています。被災地の子どもたちや障がいがかかえた人たちのことが気になります。